

初生児のための諸注意

醫學士 石 塚 保 吉

初生児といふのは、生れて間もない子供のことで、生後何日迄といふ定めはないが、先づ分娩後一二週間位迄の子供を初生児と云つて差支へないのであります。併し今お話しやうとするのは嚴密な意味の初生児でなく、只生れて間もない子供に就てのことであります。

(1) 初生児は弱いものである

胎児が母親の體を離れて世の中に生れ出るといふことは、其の子供にとつて非常な變化で、其の時の有様は丁度暖かな家庭の中に育つて、親兄弟の愛の懷で抱かれて、衣食住すべて何の心配もなく平安に養はれた子供が、俄かに世の中に出て来たやうなものであらうと思ひます。その時に周圍の人が親切に色々の事を導いてくれるといふやう

なことがなかつたならば、そういふ子供は一人世の中になつてどうしていゝかわからない。それと同じことで初生児も今迄は母親の胎内にあつて、生活に必要なものはすべて母親から供給されて、自分は只完全に母の體に寄生して居りさへすればよかつた。然るに分娩して世の中に出て來ると三つの大きな仕事を自分でしなければならぬことになるのであります。三つの仕事といふのは、第一呼吸をすること、第二營養物を自分でとつて自分で消化して行くこと、第三外界の氣温に對して自分の體温を保護することこれだけであります。初生児が呼吸する空氣は母の胎内で、母から供給されて居つたやうに行かない、即ち温度は冷たく、烟や瓦斯の様な不純物が混つて居る。營養物は胎

中にあつては必要だけ供給されたのであるが、生れてからは自分で乳を吸はねばならぬ。そして分量が丁度よいだけでなかつたり、乳の性質が變つたり。時間が不規則になつたりして、消化器を苦しめる場合も多くある。體温を維持する事は勿論自分には出来ないから看護者からして貰ふのである。そればかりでなく、斯ういふ大切な仕事をする機關、即ち呼吸器、消化器、皮膚等は此の時代には誠に弱いもので、我々の考へ及ばない様な變化がよくあるので、それが基となつて病氣を起したりする。病氣になると中々癒りにくい。斯ういふわけで、極くつまらぬ事のために貴重な生命を生れたばかりで失つてしまふ場合が甚だ尠くないのであります、統計に據ると、初生兒の時代は一番病氣に罹ることが多く、死亡する事も最も多い。

毎日二百二十一人といふ實に驚くべき數を示して居る。それ程弱いものであります。私が近頃出遇つた例を申すと、一人は昨年暮、あの雪の降つた寒い日に母親に負ぶさつて母親は家の外で働いた。それが因となつて急に肺炎を起して三日たゝない間に亡くなつた。一人は母親が寒い晩に町の湯に連れて行つたその晩から病氣になつて翌日はもう亡くなつた。どちらも一ヶ月未満であつた。今一人はやはり昨年の冬母親が遠い所の知人を訪ねる時に負ぶさつて行つたので、肺炎になつて死んだのである。斯ういふ例は實に澤山あります。それ故初生兒の取扱ひは注意の上にも注意をしないと、一寸した事から恐るべき結果を惹き起すのであります。

○着物よりも寒い空氣に注意せよ

前の三つの場合を考へると、皆寒い空氣を呼吸した爲めに起つた病氣である。親達は皆着物を澤山着せて温かに負ぶして行つたとか、あんまり寒

い晩だからお湯に行つて暖めてやりませうと思つたといふ。澤山着物を着せても、お湯で暖めても寒い空氣が氣管に入るのを防ぐことは出来ない、いくら暖くしてやつても寒い處に連れ出すと忽ち氣管を痛めるのである。こんな事はわかりきつた事だが實際に於て注意されないのであります。

○營養は母乳に限る

呼吸器が弱いやうに、消化器も亦非常に弱いものと思はねばならぬ。營養品に僅かばかりの變化があつたり、少し分量や溫度が違つたり、又は時間が不規則になつたりすると、大人には何の障りもないことでも、初生兒の消化機關には直に影響するのである。斯ういふ時代の人工營養といふことは最も危険が伴ふのであります。一體人工營養は何れの時代でもあまりよくはないが、少し成長した子供ならばそれ程害は起らない、併し少くとも生後三ヶ月間は母乳で育てたいのである。母乳は初生兒の營養品として最も完全で、これに勝る

ものは何にもない、そしてよい營養品といふばかりでなく、この時代に起り易い營養障害、消化不良の豫防としては非とも母乳を與へなければならぬのである、人工營養品は何を用ひても又どんなに注意しても、それが初生兒の腸胃に叶ふて消化不良を起さないといふことは殆んどない。此の頃に起つた營養障害はなかなか癒り難いので、遂にはその爲めに斃れることも少くないのである。癒つても發育を妨げられ、後々迄も影響が及んでその子供は一生健康を害ねるやうになる。斯ういふ次第であるから最初の營養は是非共母乳を用ふるやうにし、若し母乳が少ない場合には、出来るだけ母乳を廢さないで、母乳の傍ら外のもので補ふか、又は乳母を雇ふことにしなければならぬ。母乳の營養にしても時間を正しくすることは非常に大切で、どんなによい食物でも分量が過ぎると必ず消化不良を起すのであるから、母乳だからと云つて不規則に與へることがあつてはならない。

○臍の取扱の大切なこと

初生児に特に大切なことは臍の取扱ひである。母の胎内にある時は臍帯を通じて血が通ひ、子供の生命を保つて居たのである。故に臍の傷は子供の臍の内部に通ずるので、微菌が附くと直に臍の焮衝を起すか、腹膜炎を起す。そうなると助かる見込みはないのである。初生児に特別の病氣があるとすれば、殆んど總て臍の病氣である。臍から出血したり、焮衝を起したり、息肉腫と云つて、疣が出来たり、丹毒、破傷風の微菌がついたりするので非常に危険である。故に注意の上にも注意をして取扱はなければならぬ。勿論産婆が取扱ふのであるが、家のものも知つて居る必要があります。

○皮膚の爛れに注意せよ

初生児は身體の諸所がよく爛れるものである。それは皮膚が弱いことを現はして居るので、大小便のために不潔になつたのを構はず、置いたり、

濡れた襁褓をあて、置いたり、よく洗はない襁褓を使つたり、又はすべて濕氣を帯ぶると爛れるので、つまり清潔法の充分でないことを示すのである。この爛れが殆んど身體全部に擴がることがある。こうなると全身に傷が出来たことになるのであるから、微菌が附くと敗血症を起して斃れるのである。爛れを癒すにはたゞ清潔法を嚴重にし毎日湯に入れ、清潔な柔らかい切れで水氣を吸ひとり、シツカロール若くは亞鉛花澱粉等を撒布してその場所を乾燥させるやうにすれば自然に癒るのであります。

○驚口瘡

初生児の口中や、舌などに乳のやうな固まりが附いてとれなくなる。激しいのになると口中に擴がつて、子供は痛みのために乳を吸ふことが出来ないで瘦せ衰へてしまふ。これも一種の微菌で、原因は口内が不潔になるからで、人工營養の子供である時、哺乳壘、ゴム管、乳首等を不潔にして

置くと、そこから起るから器物を清潔にしなければならぬ、母乳であれば乳を與へる前後に一度づゝ必ず乳を拭いて置かねばならぬ。乳を與へる前にだけ拭く人もあるが、これは與へた後に拭いた方が理にあつて居る。後の方が乳首が乳汁で汚れて居るから。微菌は好んでかやうな處に繁殖するそれ故直に拭いてしまふと、微菌が附着する機會を失ふのであるから、次に與へる時にはざつと拭けば、それで不潔の恐れのない乳を與へることが出来る。人工營養ならば哺乳壺、ゴム管、乳首等の清潔法を嚴重にしなければならぬ。即ち使用後時を移さず洗つて、ゴム管は五十倍の重曹水中に暫く浸けて置いて、次に使ふ時に煮沸水で洗ふこととにすればその心配はないのである。若し齋口瘡が出来たらば重曹水で拭くと大抵の場合には確實にとれるのである。頑固にとれないのは醫師の手にかけるのであるが大概は重曹でとれる。

○入浴の注意

赤坊は産婆が湯に入れるが、湯に入れることは大切なことで、日本でも西洋でも行はれて居る。入浴は身體を清潔にする爲めの目的ばかりではないので、それによつて身體を温め血液の順環をよくし、新陳代謝の機能を活潑にすることが大切なのである。故に熱があるとか身體に傷が出来たとか、風邪をひいたとかいふ特別の場合の外は毎日入浴しなければならぬのである。その外前に云つた爛れも防ぐことが出来、皮膚を丈夫にすることが出来るので、子供の爲めに非常に都合がよい方法である。湯の温度は攝氏三十八度位がよい、子供には手加減よりも出来ることなら寒暖計を用ひて温度を計りたい。我々ならば一度位高くても影響はないが、初生児は僅かの違ひも障るのであるから、手加減では不確實になり易い、寒い時と温かい時とで餘程加減が違ひ、又手の冷たい時と暖かい時とで違ふのである。石鹼は刺戟の少ないもの、舌で嘗めて舌に刺戟を與へないものがよい

石鹼である。アイボレ、スワン等ならばよい。

○適當なる保護を要す

子供に着物を着せる時、又は襦袢を取り換へる時はすべて温めなければならぬ。一人で寐かす時は蒲團も温めるやうに、すべて身につくものは冷くてはいけない。生れた時には湯婆を入れる必要があるが、熱過ぎると害がある。ある時夜中に子供が大熱を起したから来てくれといふ事で、直に行つた所が、子供は四十度以上の熱で、口は渴いて息がせわしくなつてゐる、よくみると小さな子供にその身體の大きさ位の湯婆を三つ迄も入れ、しかも非常に熱くしてあつた。それを取り除けて頭を冷したらば暫くにして平熱に復し、安静になつたことがありました。子供は保護することは大切であるが、極端になるとかういふ間違ひが出来る正當に生れた子供ならば特別に冷しさへしなれば、即ち冷たい着物を着せたり、冷えきつた夜具の中に入れたりしないで、温かい中に入れ、

自分で體温を保つことは出来るのであります。その程度で保護することが必要である。

要するに子供は弱いものであるから、看護者は注意を厚くして保護することが大切であると共に過ぎた保護にならないことを祈るのであります。

○本會二月例会

本會二月例会は廣告の通り、八日(第二土曜日)午後二時から東京女子高等師範學校附屬幼稚園で開きます。會員諸君その他お誘ひなさつて、皆さん御來會を希望致します。

○編者より

△本號から菅原文學士の譯述にかゝる『美學講話』を連載いたします。完結の上一つにまとめることの出来るよう附録として別ページにして置きました。編輯者の序としても記しておきました。皆さんの御精讀を希望いたします。

△本號から振り假名を去りました。之れで紙面が大層さつぱりして御覽の通り大層讀みよくなりました。

△振假名を去ることも、附録の掲載も今年の第一號から始める筈でしたが編者の手おくれで途中からになりました。尙ほ今後いろいろの方面に益々本誌を有益なものにし度いと思つて居ります。